

ご意見、ご感想をお寄せください。(Eメールでも受け付けています)

年金改革の「主役」は若い世代

最初にヨーロッパの話ですが、先日、フランス全土のバスや地下鉄、電車、飛行機が止まりました。フランス中の交通網がガタガタになって、みんながひどい目にあいました。何が

最初にヨーロッパの話ですが、先日、フランス全土のバスとして受け取るのは六八〇〇万円。一三〇〇万円に対して六八〇〇万円の年金が受け取れる。実に五倍以上ですね。七十歳以上の皆さんは、これまでの働いてきた見返り

に対して五七〇〇万円です。から、差し引き二〇〇〇万円ぐらいのプラスになるわけですね。まだ良い方だと思います。では、三十代になるとどうでしょうか。私の世代です。私たちは五八〇〇万円の年金

問題に他ならないのです。これでは、年金保険料を払うだけバカバカしいと思う人が出てくるのも当然です。現に、国民年金の保険料を払わない人が最近どんどん増えていきます。国民年金の対象者の

です。若い人たちの、今の年金制度に対する不信感の表れだと思えます。年金制度は社会保障の基盤であり、日本の将来にかかわる最重要課題です。そして、その影響を一番受けるのが私たち若い世代です。ですから私たちは傍観者ではなく、当事者として真剣に考えなくてはなりません。私たちの世代には、投票にも行かない人が多いようですが、そんなことではいけない。政治に積極的に参加をし、誰もが安心して暮らせる社会を作っていくしなければいけないのです。

ストライキの目的であったかという点、実は年金問題なんですね。

年金の問題は日本だけではなく、高齢化しているすべての国が直面している問題です。しかしながら、日本は世界でも最も速いスピードで高齢化していますから、一番深刻に影響を受ける国であるわけです。

と、潤沢な年金を受け取れる世代です。それでは五十歳ぐらいの世代はどうでしょうか。五十歳の方で見ますと、払い込んだ年金保険料が三、八〇〇万円。それに対して六十五歳以上になつてから受け取る年金が五七〇〇万円。三、八〇〇万円

うち、保険料を払っていない人の割合は三十七%にのぼっています。二十代に限るともっとひどくて、四十八%もいるそうです。二人に一人が年金の保険料を払っていない。これでは、国民年金の制度は崩壊

(この文章は七月二十四日の報告会における発言を要約したものです)

ところで、会場の中に三十五歳以下の方はいらっしゃいますか。私は三十二歳です。で、この三十五歳以下にあたります。何でそれをお聞きしたかという点、これからの年金改革で一番損をするのは、まさにこの三十五歳以下の世代だからです。私たち三十五歳以下は年金で八〇〇万円くらい損をします。

世代別で見ると、現在、七十歳以上の皆さんがこれまで働いて納めた年金保険料は、総額で二、三〇〇万円ぐ

子どもたち、皆さんのお子さんやお孫さんにあたる子どもたちが年金保険料をいくら払うかというと、六九〇〇万円も払わなければなりません。その子たちが六十五歳になった時にもらえる年金は、なんと四九〇〇万円にしかならないんです。払い込んだ額ともうえる額が逆転してしまうのが三十五歳。それより下の世代は年金で、大幅に損をするわけです。今言われている年金問題というのは、正に世代間格差の



東京都議会議員

柿沢未途

カキザワ ミト

昭和46年生まれ 東京大学法学部卒業 元NHK記者